

## 令和2年度 第1回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和2年11月24日（火） 15時30分開会

場 所：庄原市役所本庁5階 第2委員会室

出席者：【構成員】

木山耕三市長            牧原明人教育長            末信丈夫教育委員  
横山和明教育委員      神本久美教育委員      立花有佐教育委員

【事務局】

花田譲二企画振興部長            片山祐子教育部長  
東 健治企画振興部企画課長      荘川隆則教育部教育総務課長  
東 直美教育部教育指導課長      今西隆行教育部生涯学習課長  
ほか担当職員（3名）

【議事進行】

木山耕三市長

欠席者：なし

傍聴人：2名

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 議題

#### （1）庄原市教育大綱について

配布資料1に基づき、庄原市教育大綱（以下「大綱」）について事務局より説明を行い、第2期庄原市教育振興基本計画（以下「第2期基本計画」）の基本事項部分（基本理念と基本目標）を大綱として位置付けることでした承を得た。

#### ●意見交換

（市長）

大綱の対象期間について、案では5年とされているが、これで問題ないか。現行の大綱ではどのように整理されているのか。

（事務局）

大綱の対象期間について法的に定めはないが、文部科学省では首長任期や教育振興基本計画の期間等を踏まえておおむね4～5年が望ましいとされている。現行の大綱についても教育振興基本計画に合わせて5年としており、新たな大綱についても同様としたいと考えている。

（教育長）

現在第2期基本計画の策定に当たってこれまでの成果や課題を集約しており、それに基づき今後の5年間あるいはもっと先を見通すことも考えた上で、5年で区切って計画策定

を考えている。事務局の提案のとおり、大綱も第2期基本計画に合わせて5年という整理で良いと考える。

#### 4. 報告事項

##### (1) 新型コロナウイルス感染症影響下における教育活動の状況について

配布資料2に基づき、市内小中学校の状況及び生涯学習関係事業の実施状況、新型コロナウイルス感染症対策事業について事務局より説明を行った。

#### ●意見交換

##### (神本委員)

市内小学校の運動会を2校見学したが、子どもたちの生き生きとした姿を見て、子どもたちの発表する場というものが大切だと改めて感じた。新型コロナウイルス感染症で開催が難しい状況ではあるが、中止するのではなく、何とか工夫を凝らして子どもたちの発表する場を、学校やそれ以外でも作っていくことが必要と考える。

##### (教育長)

本市の場合、新型コロナウイルス感染症が収束していない中でも、「できない」という結論を下すのではなく、何とか工夫して実施しようという形で進めた。例えば水泳については、県内ではほとんどの市町が実施していないが、本市は時間数を減らすあるいは学年を限定して実施し、運動会や修学旅行についても、時間や日数を縮めるあるいは場所を変えてでも実施している。研究公開のような外部から多くの人々が来られる企画にしても、きちんと対策した上で参加していただくなど、いくつかの学校で取り組んでいる。また、職員研修もできれば外部に出て実施しようということも併せて検討している。

##### (事務局)

運動会や文化祭、学習発表会などは例年大勢の方に見ていただいていたが、こうした状況下ではなかなか叶わないので、撮影した写真や動画をホームページ上で保護者に限定公開するなど、来られなかった方にも活動の様子を見て応援してもらおうということに取り組んでいる学校もある。各学校でも保護者あるいは地域も巻き込んで研究を重ねており、今後もしょうしたことが必要になってくるので、しっかりと工夫して取り組んでいきたい。

##### (立花委員)

近年は運動会を春に実施する学校が増えていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で秋に実施する学校が多かったことで、かえって良い面も見えたのではないかと。1年生にとっては入学してすぐの春に実施されるよりも秋に実施した方が余裕もあるし、6年生も自分たちが最高学年であることを自覚している姿が伝わってきた。

##### (市長)

昔は農繁期の都合で秋に実施するということがあったが、現在は新しい生活様式も出て

いる中で、変えるところはどんどん変えても良いと思う。実施時期については学校が決定しているのか。

(教育長)

学校が地域との協議やスポーツ少年団等の大会との調整を踏まえて決定している。自分としてはかねてから春よりも秋に実施する方が良いという考えだった。一概には言えないが、子どもたちの力が発揮できることや教員の指導体制もできているということで、秋に調整することは可能と思っている。

(横山委員)

新型コロナウイルス感染症下での学校行事において、一番の懸念は外部の人が入ってくることだと思う。今年に限って見れば、外部の人に見てもらわなくても、子どもたちに発表の場を確保することはできるのではないかと。行事によっては来訪者に氏名や連絡先を書いってもらうなどの対策があったが、場合によってはもう少し踏み込んだ対応も必要だったのではないかと。第3波が懸念されているが、そうした中でも何とか子どもたちに発表の場を確保するということは、限定的な開催でも必要であると思った。

(神本委員)

行事に向けて子どもたちが準備したり友達と協議したりという過程が大事であり、そこで培われる力もあると思う。そこが今年度は薄くなってしまったのがかわいそうだと思う。子どもたちもずっと勉強ばかりだと息が詰まるので、学校行事のありがたみは保護者としてもすごく感じるし、学校現場の先生方もそのように感じている方は多いのではないかと。それぞれの学校で工夫しながら実施しているとは思いますが、できる限り学校行事はやっていただきたいと思う。

(立花委員)

地域が諦めていた絵本祭りや図書祭りについては、学校も最大限の注意を払った上で前向きに取り組んでいて、地元もできる限り学校の要求に合わせて何とか実施することができた。実施してみると教員も児童生徒もとても喜んでいて、新型コロナウイルス感染症の影響でごく限られた行事しかできていないのだということが伝わってきた。

(末信委員)

ある学校の運動会を見学したが、そこでは学年ごとの発表で、参観はその学年の保護者のみという形だった。さらに事前に学校から保護者に子どもたちの健康状況を確認し、当日は該当する学年以外は別の場所で待機するなど、かなり細かな対策がとられていたが、ほとんどの保護者が参観しているとのことだった。学校も大変だったと思うが、保護者からの協力もしっかりとされていると感じた。

(市長)

この感染症は我々大人も経験したことのないものであり、学校が再開されて、子どもたちも様々な気持ちがあると思う。学校行事も中止・延期となる中で保護者だけでなく子どもたちにもストレスがかかっていたと思うので、家庭と学校がしっかり連携をとって、そうした子どもの気持ちに沿えるようにしてもらいたい。

(教育長)

例年休み明けは「早く学校に行きたい」という子どもばかりといっても過言ではない状況だったが、今年は年度開始当初が長期休業となった影響で、うまく学校生活のスタートを切れていない子ども、あるいは休業中の家庭学習が思うように進んでいない子どもがいたことも事実である。そうした中でも学校が家庭と連携して、学校行事の実施や、勉強のつまづきや遅れのある子どもへの対応などを重ねて工夫している状況である。

(事務局)

三密回避のため、子ども同士で顔を合わせて交流ができない中で、6月の学校再開当初は受け身での授業が多くなり、中には「しんどい」「面白くない」と感じていた子どもがいたと思う。しかし2学期に入ってから学校行事も要所で実施するという目標を定めて、それに対して子どもたちの意識を高めていくということをそれぞれの学校で取り組んだ。ただ、登校がしんどくなっている子どもが出ているという話もあるので、保護者やスクールカウンセラー等と連携して、引き続き丁寧に対応しようと考えている。

(市長)

子育ては親にとって不安なもの。その子どもが「学校へ行きたくない」と言えば親としても本当に困ると思う。しっかりと連携を強化して、新型コロナウイルス感染症の中でも悪影響が出ないよう気配りをしてもらえればと思う。

(末信委員)

新型コロナウイルス感染症対策でさまざまな補正予算が組まれており感謝しているが、GIGA スクール構想についての懸念として、1点目は報道で取り上げられている企業のリモートワークのように、あたかも学校でもタブレット端末を導入すればオールマイティーなものになるかのような声が聞かれる。そうではなくて、いかに教育活動の中に位置付けて活用するかが大事であり、誤解を生まないように注意しなければならない。もう1点は、タブレット端末が3月中に利用できるようになるが、教員への研修も大事だと思うので、そこも重視してほしい。できれば研修の実施状況を教えてほしい。

(事務局)

タブレット端末は現在1クラス分を整備しているが、今後は1人1台になり使用頻度が増えるので、教員がそれを有効に活用できることが重要と考えている。県が現在進めている「G Suite」についても、夏から秋にかけて市教育委員会から学校に対して内容や利用法に

ついて説明を行っているほか、タブレット端末を効果的に活用した授業づくりについて、県教育委員会の指導主事も招聘して研修を行っている。ただ、1回研修したからと言って教員もすぐに使えるようにはならないので、来年度以降も計画的に実施していきたい。県教育委員会からは要望があれば講師を派遣すると伺っているので、それらも効果的に活用していきたい。例年研修は年1回の実施だが、それでは少ないということで、来年度は複数回実施していく考えである。

(横山委員)

それぞれの学校でICTを推進する教職員の配置はあるのか。また、タブレット端末が多く導入されると、特に大きな学校では一斉に使用することになると思われるが、回線の容量は問題ないのか。

(事務局)

学校内の推進体制については、各学校で中心的な役割を担う教員を決めて、その教員が研修に参加して成果を学校内に共有している。また、要望があれば市の職員が学校を訪問して研修を行っている。

回線については、現在は1つの回線を26校で分けて使用しているが、今後は各学校に回線を整備する。さらに、大きい学校についてはその中で太い回線を割り当てるので、たくさんの生徒が使用しても十分な速度が出せるよう工事を進めているところである。

(教育長)

どう使うかというところが一番の問題で、先ほど末信委員が指摘されたように、タブレット端末がオールマイティーなものになるかのように言われているが、基本は対面授業。その中でタブレット端末をどう活用して子どもたちの質を高め、学びを深めていくかを考えなければならない。今後もし新型コロナウイルス感染症で登校できないという事態になればリモートでの学習も考えられるが、基本は対面授業の中でどう使っていくか。毎日の全ての授業がタブレット端末を利用したものになるとの誤解もあるが、そうではなくどの授業、どの単元で、どう使えば効果的になるのかということをしちんと精査して、また教員も教材研究、校内研修をしていくことが重要であると思う。一斉授業、個別学習あるいは子ども同士の学習などさまざまな場面があり、しかも教科によって有効な使い方が違うと思うので、研修だけでなく実践も踏まえて活用していきたい。

(市長)

せっかく導入するものなので、授業で子どもたちの気持ちが離れてしまわないように工夫してしっかり活用してもらいたい。

## 5. その他意見交換

(末信委員)

新聞等で学校の取り組みが紹介されると、頑張っていることが伝わって応援する気持ちも出てくる。市の広報紙にも適正配置や学力調査の結果などが掲載され、地域や保護者にも大きく影響を与えていると思う。地域が応援してくれると学校も頑張れるし、教員が生き生きしていれば子どもたちも生き生きすると思うので、本市が教育に力を入れていることをPRする意味でも、今後市の広報紙にもう少し教育の特集を写真入りで掲載してもらいたい。

(事務局)

広報担当部署とも協議し、積極的に掲載するよう取り組んでいきたい。

(市長)

新型コロナウイルス感染症の中でも庄原市の子どもたちが頑張っている姿をどんどん発信してもらいたい。

(神本委員)

以前庄原小学校の子どもたちが「庄原をよくしようプロジェクト」に取り組んでいたが、他の学校でもさまざまな取り組みを行っている。子どもたちのアイデアも可能な限り市政に反映させてほしい。子どもたちのモチベーションアップになるし、将来庄原に戻ってきたという機運にもつながるのではないかな。

(市長)

子どもたちは将来の庄原市の黒柱であるので、しっかりと意見を聴くチャンスを作っていきたい。

(神本委員)

西城中学校の2年生が、地元の食材を使用した弁当作りに取り組んでおり、今週28日(土)に地元JAの協力を得て販売を行う。地域の方にもよく協力していただき、子どもたちも地域の人の温かさを実感しており、非常にいい取り組みであるので、ぜひお越しいただきたい。

(市長)

学校の食は家庭や地域が中心であり、そのことを再認識するためにもそうした場は必要だと思う。

(末信委員)

高野小学校では過去にリンゴを作って販売するという取り組みもあった。

(市長)

現在は新型コロナウイルス感染症により教育の体制も普段とは違うものになっており、

子どもたち同士でも交流が難しくなっているので、早く元の状況に戻ってほしい。

(事務局)

いろいろな制限はあるが、「できない」ではなくどう工夫すれば子どもたちの学びや市民の文化活動・スポーツなどが実施できるかということを考え、市民の心豊かな生活が途切れることのないようにしていきたいと考えている。

6. 閉 会 16時45分